

自治体史編さんの専門的能力の形成過程

渡部 幹雄

愛知川町史研究 第2号 別刷

愛知川町教育委員会 町史編さん室

2004年3月

自治体史編さんの専門的能力の形成過程

渡部 幹雄

はじめに

自治体が自治体史編さんに着手する場合、相応しい人材を確保し如何に軌道に乗せるかが大きなポイントである。多くの小規模自治体の場合、最初の段階は各自治体の教育委員会生涯学習課の文化財担当が町史編さんの担当となることが殆んどである。通常、町史編さん(以下町史編さんとしての記述は小規模自治体での町史編さん事業を指す。)係及び町史編さん室が誕生するまでは一、二名のスタッフが準備が行われる。この準備段階での最も重要な準備は人材の確保である。人口一万人程度の愛知川町のような小規模自治体であれば、最低古代、中世、近世の各時代に専門的に関わることができるよう三人以上のスタッフが必要となる。これは町史編さん室設置後に扱いが想定される資料の内容に依拠しているのである。要は想定される仕事がバランス良く円滑に進捗していくことが求められているのである。当然のことながら採用する側の自治体は新しく立ち上げる編さん室スタッフの経験や専門分野の詳細を考慮することになる。本稿では、愛知川町史

編さん業務の立ち上げから三年経過した現時点までの経過を踏まえて、自治体史編さん事業に携わる力量形成過程とりわけ調査合宿時に於ける町史編さん事業の専門職を目指す学生等の力量形成について述べるものである。

一 町史編さん業務に必要なとされる技量

町史編さん事業に必要な技量を挙げると、古文書(中世・近世)の解読、マイクロフィルム撮影、目録作成、写真撮影、地図判読、地形判読、文献探査、文書資料の取扱い法、聞き取り法、漢文読解、古典読解、電子情報への変換法、交渉術、自治体のシステム認識能力、校正能力、編集能力、専門機関連用能力、文書作成能力等々が必要である。

これらの技量が身につけていけば業務が計画的に遂行できるのである。その上で一年目、二年目、三年目というように業務の内容が大きく進捗することを想定した上で最終的な到達点をイメージできる力量を持ち合わせていることが求められる。最初の計画段階では、まず資料の所在の把握、地域環境の把握、先行研究の把握、資料保存状況の把握、研究者の

協力体制の把握等々が主たる仕事となる。これらは何れも地域研究の経験がなければ進めることができない。この、最初の段階の状況把握は非常に重要であり、正確さも求められ、この段階の把握が完成する町史に大きく影響を与える。次の確認調査段階では実際に資料を扱ったり、同定したりする仕事が待ち受けている。ここでは確認された資料から未確認資料の発見に繋がる糸口を見逃さない勘が要求される。そうした勘は経験によって養われる。また、直接に触れる資料の価値の見定めが如何に重要であるかは言うまでもない。

次の段階は実際に資料を取り扱って目録化や二次資料化の作業である。この作業が最も時間を要し、且つ主要な仕事でもある。資料を理解できた上でマイク口化、電子情報化、映像化という多面的な仕事を遂行しなければならないのである。これらの業務を遂行するのに必要なマイク口フィルム撮影技術、コンピュータ操作技術、写真・ビデオ撮影技術の各能力を保有していることは当然のことである。

これらの能力を何処で修得するかといえば、一般的には大学がすぐ想起されるのではないかと思う。しかしながら、理論を中心とする大学の授業では、こうした編さん事業に必要な能力である古文書解読、漢文読解、古典読解等々の技量の一部は修得できたとしても、全てを修得することはできないのではないかと思われる。では、町史編さん等の専門職を目指す者はどのようにして力量を積み上げられるであろうか。サークル等でも、ある程度は補填できるかもしれないが、サークルで扱われる資料の限界性を考えるとサークルが技量を修

得するのに万全ではない。となると、自治体の調査事業への参加は、町史編さんの専門職として必要な力量の向上を達成するまことに現実的且つ効率的な方法ではないかと思われる。自治体の調査事業への参加の形態としては

自治体が公募したアルバイトへの個人参加

大学の研究室単位での参加

ボランティアとしての参加

の三つが挙げられる。

これらの調査の性格を個別に述べると

は自治体に調査員のメンバーが既に揃っており、調査員の個別の仕事をアシストするケースが大半であり、多種類の仕事ではなく単一の仕事が振り分けられる。

は遺跡発掘調査で多く見られるケースであり、大学に委託された調査である。調査機会が多くないだけでなく調査対象の時代が限定される場合が多い。

は仕事の内容が極めて限られており、軽微な調査のケースが多い。

以上のように各ケースを比較してみると、目的を達成するには大学の研究室単位で参加することが最も無難であるように思える。

さて、では大学において歴史学専攻、地域文化研究専攻であり且つ町史編さんの専門職を目指しているにも関わらずのようないかなる能力を身に付ける機会に恵まれない学生はどのようにすればよいのであろうか。町史編さんの専門職を目指す者はそうした機会をどのように確保するかという問題であ

る。そうした学生の専門的技量獲得の場に図らずもなったと言っても過言でないのが愛知川町史編さんの調査合宿である。

二 町史編さん専門職と社会教育専門職

これまで、町史編さん事業の専門的技量について述べてきたが、仕事が近似している社会教育施設専門職について町史編さん事業の場合と比較しながら言及することにする。

小規模自治体では、図書館、博物館、公民館等の社会教育施設で司書、学芸員、社会教育主事等の専門職が十分に配置されていないのが現状である。私見だが、その原因としては一般職と専門職との明らかかな専門的技量の差が認められていないことが挙げられる。専門職は永い期間を経て育てられるという考えもあるが、それぞれの現場では即戦力を期待している。とりわけ小規模自治体では、その傾向が強い。短期間にその手腕が求められるのである。そうした人材を先に述べた小規模自治体における社会教育施設で確保することは、社会教育施設の専門職養成過程の実態を考えると至難の業なのである。

技量のない専門職が配置されて明確な成果をあげられないとなると専門職の否定に繋がり永遠に専門職は配置されない。専門職が配置されないと活動は不活発な状態となる。この繰り返しだが現在の小規模自治体における社会教育施設の厳しい一面である。この社会教育施設の専門的職務と町史編さん業務の大きな相違点は、町史編さん事業が期限付きの業務であ

ることと、仕事の完成時のイメージが容易に描けるという二点である。従って町史編さん事業の方が専門職配置の必要性が理解され易い。また、町史編さんの業務は新卒であろうとなかろうと採用されたその日から専門的な職務が要求される。従って当然採用する側の自治体は大学で十分に調査経験を積んだ人材の獲得を望むことになる。

しかしながら、大学で経験を積むにしても学部四年間で町史編さんに必要な総ての技量を獲得することは非常に難しい。なぜなら、卒論に向けた準備と地域研究は必ずしも一致しないし、地方文書を卒論に使うとは限らない。また専門的な理論学習を積んだ後に地域研究を進める順序から考えても学部の四年間では到底充分とは言えない。これは、社会教育施設の専門職員養成の過程にも言えることなのである。

終わりに

最後に愛知川町史編さん室の調査合宿における参加者の技量獲得内容について述べることにする。

主な内容としては具体的には次のようである。

各種実物資料の取り扱い法

編さん室では中世、近世、近代の各時代の実物資料を扱っており、行李や木箱等に保存されていた資料の取り出しから現物に触れることになる。まず、最初に基本的な心構えや注意事項を学ぶ。さらに保管情報の収集及び状態観察から実物資料への対応が始まる。蔵や納屋などに保存された状態によ

り異なるが、服装の準備まで視野に入れた細心の準備が必要なのである。もちろん鼠や蛇等の小動物の屍骸、蜂や蜘蛛等の昆虫への対策も含めた万全の対策が必要である。さらに鉛筆、中性紙封筒、メジャー、ラベル、ノート、原稿用紙、ルーペ、カメラ、付箋、糊、ゴミ袋等々の調査小物の準備も必要となってくる。これらの準備については文献等で文字情報としては学習できる。しかし、服装から調査小物の扱い或いは埃一つの扱い方まで、どのような所作を伴った動きがあるのかは現場で確認するしかないのである。

カード・目録の作成法

調査の準備ができたなら現状を写真やビデオに記録し、確認して調査に入ることになる。調査の方法は調査方針に基づいて行われる。原資料からの情報を記録して行くと作業であるが極めて重要な作業である。名称、法量、員数、形状、年号、宛名、ラベル貼り、ナンバーリング、封筒入れ等々個々のケースに相応の判断をしながら細心の注意を払って進める作業の現場を経験することになる。この作業は現物資料に直接触れることのできる作業であり、また現物を観察することにより多くの情報も得られる貴重な機会となる。

各種調査機器の取り扱い法

目録取り、カード記入、封筒入れ、ラベル貼り等の整理が終了すれば、記録化の為の作業に入る。これらの作業は最新の機器や必須の機器を使って行われる。マイクログリム撮影機、マイクローリダー、一眼レフカメラ、デジタルカメラ等々での作業は、その大部分が一般的には行われない特殊な

方法であり、貴重な機会である。

聞き取り法

地域に出かけ石造文化財等の所在確認調査や年中行事等の民俗調査を実施するためには古老や地元住民からの情報収集は欠かせない。曖昧な情報をより確実な情報へと確認していく聞き取り法はフィールドワークに欠かせない手法であり、現場で経験を積める貴重な機会でもある。

交渉術

地元の自治会や聞き取り調査の話者への協力依頼等調査には相手を納得させる交渉術も要求される。地域調査には欠かせない手法を学べる機会である。

交流術

調査に係わる技量を学ぶことができることも魅力の一つであるが、調査に参加している参加者が持つ情報も大いに参考になる。表1のように年齢、経験、専門分野、大学等の違いを超えた調査団員から個々から得られる情報も得がたいものである。研修を通して多くの人脈を獲得する場でもある。

これらは何れも場数を踏むことで、より技量が高まる。古くから言われているように「習うより慣れる」「技を盗め」「共磨き」という言葉そのもの世界である。大学等で学ぶスタイルとの違いは、「慣れる」「機会や「盗む」内容がバラエティーに富んでおり、学ぶ側の姿勢次第では習熟度に限界がないと言える。また、各自が各自の研究テーマを持っていることは言うまでもない。

川書店二〇〇二年）
 京都造形芸術大学編『古文書を読む』（発行・飛鳥企画 発売・角
 参考文献

(表1) 愛知川町史調査合宿の参加者の構成 <2002～2003年度> (1)

学歴/現職	年齢層	学歴/現職	年齢層	学歴/現職	年齢層	学歴/現職	年齢層
1 博士修了/大学助教授(町史編集委員)	30代	21 修士課程 2	20代	41 学部 4	20代	61 学部 3	20代
2 博士修了/大学講師(町史執筆委員)	30代	22 修士課程 2	20代	42 学部 4	20代	62 学部 3	20代
3 博士修了/大学講師	40代	23 修士課程 2/中学教員	40代	43 学部 4	20代	63 学部 3	20代
4 博士修了/大学講師	40代	24 修士課程 2	20代	44 学部 4	20代	64 学部 3	60代
5 博士修了/大学助手	30代	25 修士課程 2	20代	45 学部 4	20代	65 学部 2	10代
6 博士修了/博物館勤務	20代	26 修士課程 1(2)	20代	46 学部 4	20代	66 学部 2	10代
7 修士修了/博物館勤務	30代	27 修士課程 1(3)	20代	47 学部 4	20代		
8 修士修了/文書館勤務	30代	28 修士課程 1(4)	20代	48 学部 4	20代	1 町史編さん室室長	40代
9 修士修了/自治体勤務	20代	29 修士課程 1(5)	20代	49 学部 3	20代	2 町史編さん室学芸員	20代
10 修士修了/自治体勤務	20代	30 修士課程 1	20代	50 学部 3	20代	3 町史編さん室学芸員	30代
11 修士修了/主婦	20代	31 修士課程 1	20代	51 学部 3	20代	4 町史編さん室学芸員	20代
12 博士課程 4	30代	32 修士課程 1	20代	52 学部 3	20代	5 町立図書館司書	20代
13 博士課程 3	20代	33 修士課程 1	20代	53 学部 3	20代	6 びんてまりの館学芸員	30代
14 博士課程 3	30代	34 修士課程 1	20代	54 学部 3	20代		
15 博士課程 3	20代	35 修士課程 1	20代	55 学部 3	20代		
16 博士課程 2	30代	36 修士課程 1	20代	56 学部 3	20代		
17 博士課程 1	20代	37 修士課程 1	20代	57 学部 3	20代		
18 博士課程 1	20代	38 修士課程 1	20代	58 学部 3	20代		
19 博士課程 1	20代	39 学部卒/研究生	20代	59 学部 3	20代		
20 修士課程 3	20代	40 学部 4(6)	20代	60 学部 3	20代		

(1) 学年および年齢層は、基本的に2003年度のもの掲載した。
 (2～5) 2002年に学部4年で参加され、2003年度は大学院に進学されて参加いただいた。
 (6) 2002年に学部4年で参加されたが、2003年度は就職されたため参加いただけなかった。学年は2002年度のもの。

『愛知川町史研究』第一号 目次

発行にあたって 渡部 幹雄

愛知川町史の目指すもの 渡部 幹雄

調査研究報告 福持 昌之

豊満神社下之郷の馬頭人 初午のピシャトウの行事を中心に 豆田 誠路

近世神主の存立とその展開 東條 さやか

近江国愛知郡豊満大明神を事例に

長野妙安寺の仏花制作

編さん事業報告

古文書調査合宿 参加記

中世文書から見た豊満神社 附・展示目録

再録 愛智の雫 町史編さん室から プレ・

事務局日誌

町史編さん日誌

資料目録 豊満神社文書目録 中近世の部

(二〇〇三年三月発行)

お問合せは、愛知川町教育委員会町史編さん室へ